

船舶事故等調査報告書

平成21年10月29日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第66号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成20年12月19日 04時30分ごろ	
発生場所	三重県賢湾阿曾浦港防波堤灯台から真方位154° 2,100m付近 (概位 北緯34° 15′ 東経136° 35′)	
事故等調査の経過	平成21年3月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか2人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	漁船 第十八 ^{かいよう} 開洋丸、19トン	
船舶番号、船舶所有者等	ME2-5378（漁船登録番号）、開洋漁業有限会社	
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士	
死傷者等	なし	
損傷	船首バルバスバウ、両舷船底外板、両舷ビルジキール損傷	
事故等の経過	本船は、船長ほか1人が乗り組み、操業を終え、三重県南伊勢町賢浦漁港に向けて約10ノットの速力で自動操舵により帰航中、単独で船橋当直に当たっていた船長が連日の操業で疲労が蓄積されていたこと、寄港地が近くなり安心したことなどから居眠りに陥り、平成20年12月19日04時30分ごろ、暗礁に乗り揚げた。 本船は、自力で賢浦漁港に帰港した。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西北西、風速 約2.0m/s、視界 良好 海象：波高 1m弱、潮汐 ほぼ低潮時	
その他の事項	日出は06時55ごろ	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、帰航中、船長が居眠りに陥り、暗礁に乗り揚げたものと考えられる。 船長は、連日の操業で疲労が蓄積されていたこと、及び帰港地が近くなった安心感から居眠りに陥った可能性があると考えられる。
原因	本事故は、夜間、阿曾浦港南方沖において本船が航行中、単独で船橋当直に当たっていた船長が居眠りに陥ったため、暗礁に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	